

立田印

相模川外四箇川流域震災復舊砂防工事概要

内務省東京土木出張所

目 次

○ 相 概 說

一 山地、河川並ニ震災狀態 七〇

模 川 流 域

中 津 川

道 志 川

子 川

桂 川

道 笹 川

早 川

中 津 川

模 川

相 模 川

二 計 畵 ノ 大 要

模 川

中 津 川

道 志 川

桂 川

道 笹 川

早 川

中 津 川

模 川

相 模 川

多 摩 川 流 域

一 山地、河川並ニ震災狀態

一 多 摩 川 流 域

二 一

二 計畫ノ大要

二七

○酒勾川流域

一 山地、河川並ニ震災狀態

三三

酒勾川

三三

河内川

三四

中玄川

三四

倉川

三五

世澤川

三六

河内川

三七

中玄川

三七

倉川

三七

世澤川

三八

河内川

三八

○花水川流域

一 山地、河川並ニ震災狀態

四一

花水川

四一

玉川

四二

鈴川

四二

金川

四二

葛川

四二

葉川

四二

無川

四三

川

四三

葛川

四三

水川

四四

二計畫ノ大要

四四

一山地、河川並ニ震災狀態

四五

早川流域

四五

二計畫ノ大要

五〇

(大正十四年十月)

相模川外四箇川流域震災復舊砂防工事概要

概 説

大正十二年九月一日關東地方大震災ニ因リ神奈川縣下相模川、多摩川、酒匂川
花水川及早川流域山地ニハ大崩壊ヲ生ジ其面積四十平方糸ヲ下ラズ之ニ東京府
山梨縣及靜岡縣下ニ於ケル崩壊地面積ヲ加フレバ約五十平方糸ニ達スベシ而シ
テ全年九月十五日ノ暴風雨ハ山腹及河床ニ堆積セル多量ノ崩落土石及倒木ヲ下
流ニ押流シ所謂山津浪トナリテ沿川各地ニ甚大ナル損害ヲ被ラシメタリ之ヲ現
在ノマ、放置センカ將來暴風雨ノ襲來スル毎ニ山腹ノ崩壊益々增大シ土石倒木
ノ流失ハ底止スル所ヲ知ラズ河川ハ次第ニ荒廢ノ程度ヲ高メ遂ニハ鬼怒川、常
願寺川、大井川等ノ如キ慘状ヲ呈スルニ至ルベク是等ノ損害ヲ未然ニ防止スル

ハ實ニ目下ノ急務タルヲ失ハズ然レドモ此ノ大災害ニ對シ徹底的善後策ヲ講セ
ンカ極メテ多額ノ工費ヲ要シ國家財政ノ現状トシテ許シ難キ所ナルヲ以テ先づ
第一期工事トシテ相模川外四箇川流域ニ屬スル神奈川縣、山梨縣、東京府及靜
岡縣管内ニ於ケル被害地中砂防工事ヲ急施スペキ河川ニ對シ應急的施設トシテ
堰堤工事ヲ施行スルコト、ナセリ其工費四百九拾八萬六千八百七拾壹圓ニシテ
大正十三年度以降十ヶ年ノ繼續事業トス尙山腹工事ハ主トシテ農林省ニ於テ荒
廢地復舊事業ノ名ノ下ニ施行スルヲ以テ本計畫ハ之ニ觸レザルモノトス

一工費豫算

金四百九拾八萬六千八百七拾壹圓

事業費

内譯

金四百五拾五萬圓

工事費

金四拾參萬六千八百七拾壹圓

工事費

一工費年度割表

年	度	事務費	工事費	計
大正十三年度		三一、八七一	二一、五六五	二四三、四三六
自大正十四年度 至大正二十一年度		四五、〇〇〇	四五五、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
大正二十二年度		四五、〇〇〇	六九八、四三五	七四三、四三五

大正十三年度

自大正十四年度
至大正二十一年度

大正二十二年度

一工事費内譯

金四百五拾五萬圓

内譯

金四百萬圓

金五拾五萬圓

本工事費

測量費、船舶及機械費、
營繕費、雜費其他

一各河川別堰堤數及工費表

四

流域	支流	小支	堰堤數	工費
相模川	中津川	桂川	日本川	秋峰谷
多摩川	道志川	笠置川	高峰原計	中津川
小菅川	中津川	桂川	日本川	秋峰谷
支流	支流	小支	堰堤數	工費
一五	二〇	一五	八〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇円
一六	二九	一六	五〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
一七	三〇	一七	一六七〇、〇〇〇	一四九、九三〇
一九	三〇	一九	一九、一七〇	一二〇、〇〇〇
二〇	三〇	二〇	一八〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇

花水川	酒匂川	河内川	淺川
金鈴川	玉鮎川	小澤川	河内川
目計川	計澤川	内計川	内計川
川	川	川	川
野澤川	世附川	中倉川	玄川
川	川	川	川
一一二	一三三	一七五	一四七
一〇一	一七一	一五七	一三四
五九	九三一	七四三	六三一
一〇二	一〇三	一〇五	一〇五
四九、六〇〇	四九、六〇〇	八五〇、〇〇〇	八五〇、〇〇〇
一〇一	一〇一	一〇一	一〇一
六〇〇、四九一	六〇〇、四九一	六〇〇、七三一	六〇〇、七三一
六〇〇、二一	六〇〇、二一	六〇〇、二〇三	六〇〇、二〇三
六〇〇、二三八	六〇〇、二三八	六〇〇、二五七	六〇〇、二五七
六〇〇、二〇三	六〇〇、二〇三	六〇〇、三一	六〇〇、三一
六〇〇、一九	六〇〇、一九	六〇〇、一九	六〇〇、一九
六〇〇、一九	六〇〇、一九	六〇〇、一九	六〇〇、一九

葛葉川	二	四五、〇〇〇
水無川	一	四三、〇〇〇
計	一六	二八〇、〇〇〇
早川	一一	六五〇、〇〇〇
合計	一五五	四、〇〇〇、〇〇〇

右計畫ハ前述ノ如ク主トシテ目前ノ災害ヲ輕減スル目的ヲ以テ成ルベク川ノ下流ニ大堰堤ヲ築設シ土石ノ流出ヲ抑止スルノ方針ニ出デタルニ過ギズ依テ適當ノ時期ニ更ニ第二期以下ノ工事ヲ起シ川ノ上流並ニ小支流ニ對シテ堰堤工事ヲ續行シ農林省ノ荒廢地復舊工事ト相俟テ治水ノ完璧ヲ期セザル可カラズ

今左ニ各河川ニ就キ更ニ計畫ノ概要ヲ記述スベシ

相模川流域

一 山地、河川並ニ震災状態

相模川ハ源ヲ富士東麓山中湖ニ發シ山梨、神奈川ノ両縣ヲ經テ相模灣ニ注グ流路延長四百六十粍流域面積千六百二十二平方粍内山地面積千四百平方粍ヲ占ム而シテ上流部ヲ桂川ト稱シ下流部ヲ馬入川ト稱ス支流ノ重ナルモノハ左岸ニ於テ笛子川右岸ニ於テ小鮎川、中津川、串川、道志川及秋山川トス

大正十二年九月一日ノ大震ニ際シ崩壊最モ激甚ナリシハ丹澤山塊ニシテ之ニ亞グラ道志山塊トス崩壊ハ傾斜三十度内外ノ急峻地ニ多ク東西ニ走レル溪谷ノ南側、南北ニ走レル溪谷ノ東側ニ多ク西側ニ少シ又上流部ニ多ク下流部ニ至ルニ從ヒ減少ス林相ニ於テハ老幼齡林ニ多ク壯齡林ニ少ナク殊ニ伐木跡地、新植地並ニ採草原野ニ甚ダシ而シテ地質ハ主トシテ水成岩ナル御坂層及古生代ニ迸發

セシ石英閃綠岩ニシテ是等ハ厚キ火山灰層ニテ被覆セラル、ヲ以テ激震ニ會フヤ忽チ地被破レ地面露出シ又岩石ノ風化霉爛シタル部分ニ龜裂ヲ生ズルト共ニ一部ハ崩壊シ一部ハ特ニ九月十五日ノ豪雨ノタメ著シク崩壊シ或ハ基岩ヲ露出セシメ或ハ山津浪ヲ生ゼシメ田畑ヲ埋メ家屋ヲ流失シ人畜ヲ害シ其ノ被害ハ實ニ驚クベキモノナリ爾後是等崩壊地ハ直接風雨ノ機械的作用ヲ受ケテ自ラ風化分解シテ砂礫ヲ流出シ又溪谷ハ降雨毎ニ掘下シテ兩岸其ノ支持ヲ失ヒ山腹ハ新ニ條裂ヲ生ジテ漸次擴大シ雨水ハ降下スルニ從ヒ砂礫ト共ニ強力ナル土砂流ヲ形成シ或ハ沿岸堤塘耕地ヲ破壊シ或ハ川床ヲ高上シ或ハ河身ヲ侵蝕シテ其ノ害毒ヲ逞フス是レ震災地方山岳ノ實狀ナルヲ以テ之ガ防止ハ須臾モ勿諸ニスベカラズ然レドモ上述ノ大崩壊面積ニ對スル復舊工事費ハ極メテ巨額ナルヲ以テ國家經濟上到底其負擔ニ堪ヘザルヲ以テ先づ第一期工事トシテ大正十三年度ヨリ大正二十二年度ニ至ル十箇年ノ繼續事業トシテ本流域復舊工費トシテ計上セラ

レタル金額ニ基キ横須賀軍港水道水源林タル中津川、横濱市水道水源林タル道志川、桂川支流鹿留川及中央東線ノ被害ヲ蒙リタル帷子川支流辰巳澤庭洞澤ニ對シ緩急否ヲ稽査シテ本計畫ヲ樹テタリ

相模川流域ノ山地ハ前述ノ如ク千四百平方糠ニシテ主トシテ丹澤山塊ノ東北部道志山塊ノ全部及帷子山脈ノ東部ヲ占ム流域内ノ山地ヲ構成スル基岩ハ丹澤並ニ道志山塊ハ御坂層ニシテ主トシテ凝灰岩及角巖岩ヨリ成リ甲相境界山地ノ両側道志山塊ノ大部及富士北方御坂層^時ヨリ東西ニ亘ル山地ヲ占メ第三紀層ハ御坂層ヲ圍ミ甲相境界ヨリ大月附近ニ至ルマデ連リ主トシテ頁岩砂岩凝灰岩ヨリ成ル火成岩ハ石英閃綠岩ニシテ帷子連山ヨリ道志山塊ニ亘ル山脈及甲相ノ境界ヨリ東ニ連ル山脈ヲ構成シ又富士熔岩ハ富士山麓ヨリ桂川ノ峽谷ニ沿フテ猿橋ニ及ブ而シテ是等地層ノ上部ハ多少分解シタル赤褐色ノ富士火山灰ノ厚層ニヨリ被覆セラル是等山地ノ林相ハ概不温帶闊葉樹ヲ下木トシ樅梅ト赤松ヲ上木トス

ル所謂針闊混生林ナリ本流域ニ於ケル支流ノ最大ナルモノハ中津川ニシテ道志川、笛子川之ニアグ

中津川 本流ハ宮ヶ瀬村落合ニ於テ一大支流早戸川ヲ合ス流域面積百八十
四平方秆五アリ

本流ハ源ヲ丹澤山、塔ヶ岳大山等ノ諸峰ヲ結ブ一連ノ山塊ニ發シ流路延長十五
秆ニシテ宮ヶ瀬落合ニ於テ早戸川ト合スル急勾配ノ河川ニシテ流域面積五十三
平方秆二アリ平均水面勾配ハ三十分ノ一内外ナリ從來本流域ハ森林密生シ殆ン
ト崩壊ト認ムベキモノ無ク水流ハ常ニ清澄ニシテ各所ニ深潭ヲ形成シツ、アリ
シガ一朝大震ニ會フヤ全山到ル所大崩壊ヲ生ジ土石及立木ハ河流ヲ堰キ大震當
時ハ一時間以上流水ヲ見ザリシトイフ而シテ九月十五日ノ出水ニ會スルヤ多量
ノ土石ハ倒木ト共ニ流下シ田畠ヲ害シ家屋ヲ流失セシメタリ而シテ川床ノ隆起
ハ下流ニ於テ二米ニシテ上流ニ至ルニ從ヒ其度ヲ増ス本川ニ於テ砂防工事ヲ施

行セントスル區間ハ早戸川トノ合流点ヨリ上流二秆ノ点ニ始マリ本支流ノ兩岸
岩盤ノ露出スル狹窄部ヲ利シテ堰堤工事ヲ施シ以テ流下砂礫ヲ抑止スルト共ニ
溪川ノ勾配ヲ緩和セントス

早戸川ハ源ヲ蛭ヶ嶽丹澤山等ノ高峰ニ發シ流路延長十二秆落合ニ於テ本流ニ合
ス流域面積三十七平方秆六ニシテ平均水面勾配ハ約十三分ノ一内外ナリ流域ノ
大部ハ鳥屋村々有林ニシテ官行造林ニ據リ年々杉、扁柏ヲ植栽シツ、アリシガ
大震ニ相遇スルヤ崩壊最モ甚ダシク三十三平方秆七ノ村有林面積ニ對シ十五平
方秆ノ崩壊面積ヲ生ジタリ從テ川床ノ隆起甚ダシク二米ヨリ六米ニ達スル個所
アリ本川ハ両岸岩壁峻立シタル狹窄部ヲナス箇所多キヲ以テ先づ是等ニ堰堤ヲ
築設シテ流下砂礫ヲ防止スルト共ニ下流川床ノ底ト計ラントス

道志川 ハ其源ヲ甲斐山伏峠ニ發シ北東ノ方向ニ向ツテ道志山塊ト丹澤山
塊トノ間ヲ流レ山梨神奈川兩縣ノ境界ニ至リ蛭ヶ岳ヨリ發スル大支流神ノ川ヲ

併セ蛇行シテ津久井郡三澤村地先ニ於テ相模川ニ合ス流域面積百四十四平方杆
流路延長約四十三杆平均水面勾配三十三分ノ一ニシテ支流ノ主ナルモノハ右岸
ニ於テハ神ノ川、大群澤、椿澤、室久保澤、三ヶ瀬澤等左岸ニハ峰ノ澤、椿澤
神地澤等ナリ本流域上流急峻部ハ概ネ横濱水道水源林ニシテ其面積三十五平方
杆アリテ植伐相叶ヒ施業稍見ルベキモノアリシガ一朝激震ニ會フヤ崩壊相踵デ
起ルト共ニ之ニ伴フテ樹木ノ倒落ハ豫想外ニ甚ダシキモノアリ又神ノ川ノ如キ
ハ豪雨ノ際ハ一見流水ヨリモ含有土砂ノ方多キ狀態ナリ故ニ是等流出土石ヲ抑
止スベキ堰堤築設ハ最モ急務ニシテ相模川合流点上流五杆ヨリ三十杆ニ至ル間
ハ兩岸岩盤露出シ諸々ニ峠窄部ヲ存シ其ノ上流ハ懷廣ク堰堤築設ニ好位置多シ
然レドモ是等地先村落ハ耕農地渺キヲ以テ川床ハ至ル所利用セラレテ水田ノ存
在ヲ見ル故ニ本川ニ砂防工事ヲ施サントセバ先ツ各支流ニ堰堤ヲ築設シ本流川
床ノ底下ヲ計ルヲ得策トス

笛子川 ハ源ヲ御坂山脈ナル笛子峠ヨリ發シ水源ヲ峠ノ澤ト稱シ東南ニ向
ツテ流レ追分ニ至リ摺張峙ヨリ來ル狩谷澤ヲ合セテ東流シ笛子、初狩、廣里等
ノ諸村ヲ經テ大月ノ西部ニ於テ桂川ニ合ス流域面積九十四平方杆流路延長約十
五杆アリ水面勾配ハ急ニシテ二十七分ノ一内外ナリ震災ニ因ル崩壊ハ右岸ニ多
ク左岸ニ尠シ殊ニ右支柳澤、辰巳澤、庭瀬澤^海ハ中央東線交通ノ要衝ニアタリ大
正十二年九月十五日ノ豪雨ニ際シ是等各溪流ヨリ押出スル土砂ノタメ線路ヲ埋
メ二日間汽車不通トナレルハ今尙人ノ記憶ニ新タル所ナリ故ニ本流域ニ於ケ
ル砂防工事ハ辰巳澤、庭瀬澤ニ堰堤ヲ築設シ流下砂礫ヲ抑止シ以テ交通ノ安全
ヲ計ルト共ニ漸次他ノ諸溪ニ及ボサントス

桂川 ハ相模川上流ノ總稱ニシテ山中湖ヨリ發シ比較的平坦部ヲ貫流ス震災
ニヨル崩壊ノ最モ甚ダシカリシハ右支鹿留川ナリ鹿留川ハ源ヲ道志山塊皆形山
ニ發シ流路延べ十一杆東桂村落合ニ於テ桂川ニ注グ急勾配ノ河川ニシテ平均水

面勾配ハ約十四分ノ一ナリ流域面積ハ三十八平方秆ニシテ東桂村ノ大部分ヲ占ム而シテ地質ハ支流倉見澤ヨリ上部ヲ構成スル基岩ハ石英閃綠岩ニシテ下流部ハ御坂層ニ屬スル凝灰岩ナリ九月一日ノ激震ニ因リ崩壊著シク同月十五日ノ強雨ノタメ土砂石礫及立木ノ流出著シク桂川トノ合流点ヨリ約二秆ナル門原ヨリ上部大野ニ至ル二秆ハ強力ナル土砂流ノタメ沿岸耕地ヲ破壊シ家屋ヲ流失セシメタルノミナラズ震災前十米ニ過ギザリシ川幅ハ今ヤ百米乃至五百米トナリ今尙豪雨毎ニ流身一定セズ亂流シツ、アリ即チ是等耕地ノ流亡ヲ防止シ流下土砂ヲ扞止スルノ目的ヲ以テ上流部ニ堰堤ヲ築設セントス

二 計画ノ大要

相模川 流域震災復舊砂防工事ニ於ケル本工事費ハ百六拾七萬圓大正十三

年度ヨリ大正二十二年度ニ至ル拾箇年繼續事業トシ緊急施行スペキ個所ヲ撰定

セリ即チ右支中津川ニ六拾萬圓同ジク道志川ニ八拾萬圓左支筆子川ニ五萬圓及上流桂川ニ貳拾貳萬圓トス

中津川 ハ一大左支早戸川トノ合流点下流五百米ノ箇所ニ堰堤築設ニ好位置アルモ上流部ノ宮ヶ瀬村落合部落ニ影響スルコト大ナルヲ以テ合流点ヨリ上流ヲ撰定セリ本流ハ合流点ヨリ二秆ノ間ハ堰堤築設ニ好位置ナキモ之ヲ過グレバ俗稱瀬戸尻ト稱シ大山西麓ヨリ發スル布川トノ合流点ニ至ル五、五秆ノ間ハ兩岸共ニ岩盤露出スル絶壁ニシテ堰堤築設ニ絶好ノ位置多ク内六箇所ヲ撰ブ即チ俗稱男瀧下流ニ於ケルモノヲ最下流ノ堰堤トシ男瀧下流堰堤ト稱ス次デ厚朴瀬戸尻左支ビリ澤トノ合流点下流ニビリ澤下流堰堤其ノ上流俗稱長者屋敷ニ倉澤堰堤布川トノ合流ヨリ下流一秆ノ箇所ニ權化平堰堤ヲ計畫セリ小支流ニハ好位置少ナキヲ以テ唯大山北麓ニ水源ヲ有スル唐澤ニ唐澤堰堤ヲ築設ヘル豫定ナ

早戸川

ハ合流点ヨリ上流一、六秆ノ箇所ニ好位置アルモ上流部ノ耕地ヲ

犠牲ニセザルベカラザルヲ以テ暫ク之ヲ見合セ其上流一秆ノ箇所ニ兩岸岩盤露出セル位置ニタマリノフチ堰堤ヲ築設シ次デ上流七秆ノ間ニ六箇所ヲ撰ミテ堰

堤ヲ計畫セリ支流ニハ宮ヶ瀬金澤ニ一箇所水澤ニ一箇所ヲ築設スル豫定ナリ

道志川

ハ流路延長四十三秆アリテ岩盤露出シテ堰堤築設ニ絶好ノ位置妙

カラザルモ多クハ其上流部ニ田畑ヲ有シ總テ是等ハ犠牲トナルヲ以テ暫ク之ヲ

中止シ山梨縣ニ屬スル部分ニシテ影響少キ箇所ヨリ建築スルコト、シ道志川中最大支流神ノ川トノ合流点ヨリ上流一秆ノ箇所ニ大渡下流堰堤ヲ築設シ順次上流ニ向ヒ大渡上流、野原、久保及大室指ノ五箇ノ堰[○]計畫セリ又神ノ川流域ハ崩壊最モ多ク流出土砂甚ダシキヲ以テ本流トノ合流点ヨリ三百米ノ上流ニシテ右小支袖平澤トノ合流点ニ社宮司堰堤ヲ築設セントス夫レヨリ約一秆上流ニ小瀬戸堰堤ヲ又二秆上流ニ大瀬戸堰堤ヲ計畫シ更ニ小右支袖平澤ニハ袖平澤堰

堤ヲ築設セントス其他ノ支流中荒廢最モ甚ダシキ西ノ澤、井口澤、横山澤、此間澤、大群澤、椿澤等ニ流出スル土砂ヲ扞止スルト共ニ下流道路橋梁並ニ水田等保護スルノ目的ヲ以テ堰堤各一個ヲ計畫シ更ニ上流室久保澤ニハ二箇所三ヶ瀬澤ニハ床固ニ筒堰堤一ヶ所ヲ計畫セリ

笛子川

本川ハ堰堤築設ノ好位置ナキヲ以テ最上流部及各支流ニ於テ流出

スペキ土砂ヲ扞止セントスル計畫ヲ樹テシモ經費ノ關係上先ツ以テ鐵道並ニ國道ニ直接被害ヲ及ボスペキ支流辰巳澤及庭洞澤ヲ撰定シ押出土砂ヲ扞止スルト共ニ溪底ノ勾配ヲ緩和スルノ目的ヲ以テ兩溪共ニ四箇所堰堤ヲ計畫セリ

桂川

ハ山中湖ヨリ發スルヲ以テ常ニ水量多ク且ツ本川筋ニ崩壊地歎キノミナラズ概ネ熔岩地帶ナルガ故ニ堰堤築設材料ニ乏シキヲ以テ各支流ニ於テ流出土砂ヲ扞止スルコト得策ナルニヨリ各支流中荒廢最モ甚ダシク且ツ被害著シキ鹿留川及小佐野川ヲ撰定ス鹿留川ハ本川トノ合流点ヨリ四秆上流ナル大野部落

ヨリ漸ク山間部ニ入ル箇所ヲ始トシテ其上流ニ三ヶ所小右支倉見澤ニ一箇所ヲ
撰定セリ尙小佐野川ハ本流トノ合流点上部ニ好位置一箇所アルノミナルヲ以テ

唯一簡計畫セリ

相模川流域震災復舊砂防工事費内訳表

相模川		本流
中津川		支流
		小支流
早戸川	右支唐澤	
鳥屋村	同縣津久井郡	郡神奈川縣愛甲 宮ヶ瀬ク瀬村
ノ		位 置
上宮ヶ瀬金澤 流堰堤	クグリノフチ 堰堤	名 称
三五九	唐澤堰堤	男瀧下流堰堤
三四三、七二	権化平堰堤	ホウノキ堰堤
三三、一九	倉澤堰堤	瀬戸尻堰堤
三三、〇四	唐澤堰堤	ビリ澤堰堤
三〇四	権化堰堤	瀬戸尻堰堤
二九	倉澤堰堤	瀬戸尻堰堤
二八〇	唐澤堰堤	瀬戸尻堰堤
二七三	権化堰堤	瀬戸尻堰堤
二六〇	倉澤堰堤	瀬戸尻堰堤
二五〇	唐澤堰堤	瀬戸尻堰堤
二四〇	権化堰堤	瀬戸尻堰堤
二三〇	倉澤堰堤	瀬戸尻堰堤
二二〇	唐澤堰堤	瀬戸尻堰堤
二一〇	権化堰堤	瀬戸尻堰堤
二〇〇	倉澤堰堤	瀬戸尻堰堤
一九〇	唐澤堰堤	瀬戸尻堰堤
一八〇	権化堰堤	瀬戸尻堰堤
一七〇	倉澤堰堤	瀬戸尻堰堤
一六〇	唐澤堰堤	瀬戸尻堰堤
一五〇	権化堰堤	瀬戸尻堰堤
一四〇	倉澤堰堤	瀬戸尻堰堤
一三〇	唐澤堰堤	瀬戸尻堰堤
一二〇	権化堰堤	瀬戸尻堰堤
一一〇	倉澤堰堤	瀬戸尻堰堤
一〇〇	唐澤堰堤	瀬戸尻堰堤
九〇	権化堰堤	瀬戸尻堰堤
八〇	倉澤堰堤	瀬戸尻堰堤
七〇	唐澤堰堤	瀬戸尻堰堤
六〇	権化堰堤	瀬戸尻堰堤
五〇	倉澤堰堤	瀬戸尻堰堤
四〇	唐澤堰堤	瀬戸尻堰堤
三〇	権化堰堤	瀬戸尻堰堤
二〇	倉澤堰堤	瀬戸尻堰堤
一〇	唐澤堰堤	瀬戸尻堰堤
〇	権化堰堤	瀬戸尻堰堤
未着手		未着手
未着手	五月着手 大正十四年	摘要

道志川		左支水澤		宮戸川右支 宮ヶ瀬金澤	
西ノ澤		小計			
横山澤	井口澤	山梨縣南都 留鄉道志村			
同	神奈川縣津久野原村				
青根村					
横山澤堰堤	井口澤堰堤	大渡下流堰堤	大渡上流堰堤	水澤堰堤	水澤上流堰堤
西ノ澤堰堤	大室澤堰堤	久保堰堤	原堰堤	宮ヶ瀬堰堤	宮ヶ瀬上流堰堤
西ノ澤堰堤	指堰堤	堰堤	堰堤	堰堤	香澤下流堰堤
三五、一五、一九	四八、一五、一三七	三二、五七	三一、四五、〇五五	二三、一〇四	二一、六、四〇七
二五、一三七	二七、一〇七	二八	二六	一〇四	二三、二、二四
二六、七〇〇〇〇〇	三、六〇九〇〇〇	一七	一五	一三、〇〇〇〇〇	一五、一五、一〇〇〇〇
未着手					
大正十三年十月着手					

桂	川	鹿留川	三ヶ瀬澤	室久保澤	椿	大群澤	右神ノ支川	此間澤	神ノ川
山梨縣南都留	山東桂村	郡道志村南都留	三ヶ瀬澤上流堰堤	室久保澤下流堰堤	椿澤堰堤	大群澤堰堤	小瀬戸堰堤	社宮司堰堤	此間澤堰堤
合計	小計	小計	三ヶ瀬澤第一床固	三ヶ瀬澤第二床固	大野堰堤	一之瀬堰堤	大平澤堰堤	大瀬戸堰堤	小瀬戸堰堤
小合計	小合計	小合計	三ヶ瀬澤第三床固	三ヶ瀬澤第三床固	大野堰堤	一之瀬堰堤	大平澤堰堤	大瀬戸堰堤	小瀬戸堰堤
昇出	辰巳澤堰堤	雁渡堰堤	雁渡上流堰堤	雁渡上流堰堤	雁渡堰堤	雁渡堰堤	雁渡堰堤	雁渡堰堤	雁渡堰堤
昇出	辰巳澤堰堤	雁渡堰堤	雁渡上流堰堤	雁渡上流堰堤	雁渡堰堤	雁渡堰堤	雁渡堰堤	雁渡堰堤	雁渡堰堤
安兵衛堰堤	高岩堰堤	高豆堰堤	高豆堰堤	高豆堰堤	高岩堰堤	高岩堰堤	高豆堰堤	高豆堰堤	高岩堰堤
朝日窪堰堤	豆空堰堤								
木倉堰堤	岩煙堰堤								
木倉堰堤									
大正十四年 十月着手									
未着手									

庭洞澤	辰巳澤	鹿留川左支	鹿留川左支	小佐野川	小佐野川	山梨縣北都留	山鶴子村	合計	小計
一六七〇、〇〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇、〇〇〇	三、二五〇、〇〇〇	三、七五〇、〇〇〇	五、九九〇、〇〇〇	四、三九〇、〇〇〇	六、〇三〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	二一、〇〇〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇、〇〇〇
一六七〇、〇〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇、〇〇〇	三、二五〇、〇〇〇	三、七五〇、〇〇〇	五、九九〇、〇〇〇	四、三九〇、〇〇〇	六、〇三〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	二一、〇〇〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇、〇〇〇
一六七〇、〇〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇、〇〇〇	三、二五〇、〇〇〇	三、七五〇、〇〇〇	五、九九〇、〇〇〇	四、三九〇、〇〇〇	六、〇三〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	二一、〇〇〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇、〇〇〇
一六七〇、〇〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇、〇〇〇	三、二五〇、〇〇〇	三、七五〇、〇〇〇	五、九九〇、〇〇〇	四、三九〇、〇〇〇	六、〇三〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	二一、〇〇〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇、〇〇〇
一六七〇、〇〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇、〇〇〇	三、二五〇、〇〇〇	三、七五〇、〇〇〇	五、九九〇、〇〇〇	四、三九〇、〇〇〇	六、〇三〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	二一、〇〇〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇、〇〇〇
大正十四年 十月着手									
未着手									

多摩川流域

一 山地、河川並ニ震災状態

多摩川ハ源ヲ山梨縣東山梨郡神金村笠取山（標高一九二一米）本谷ニ發シ東流シテ東京府及神奈川縣ヲ流下スルモノニシテ東都市民唯一ノ給水源泉タリ秋川ハ東京府西多摩郡拜島村地先ニ於テ多摩川ニ合流スルモノニシテ源ヲ甲武ノ境三頭山（標高一五二七米）ニ發ス將來東都水道ノ確定的給水源タリ淺川ハ東京府南多摩郡七生村地先ニ於テ多摩川本流ニ合流スルモノニシテ源ヲ小佛連山ニ發シ八王子市水道ノ給水源トシテ計畫セラル、所ノモノタリ本川及支流ノ内被害ノ最モ著シキハ多摩川ニシテ四園何レモ千乃至二千米ノ高峰ノ圍ム所トナリ東京府西多摩郡青梅町附近ニ於テ平原部ト相接ス此上流流路延長六十二糠ニ及ブ

全流域ノ地質ハ大体ニ於テ秩父中部古生層ニシテ下流ニ於テ第三紀層及沖積層及洪積層ヲ有ス上流山梨縣神金村落合附近ニ於テ石英閃綠岩層ノ露出ヲ見テ秩父層ハ其ノ下部ニ入ル石英閃綠岩ノ露出ハ落合、藤棚瀧ヨリ泉水谷小支牛首谷分岐点ヨリ大菩薩嶺ヲ含ミテ西南部ニ露出シ小菅川上流ノ河底及兩岸ニ露出ス閃綠岩ノ露出ハ甲武ノ境ヲナス三頭山塊ニシテ小菅川小支小玉川、白澤方面、秋川上流及多摩川支流岫澤川ニ之ヲ露ハス小佛層ハ淺川上流地方ヨリ五日市方面益塙、刈寄ノ両谷ニ主トシテ露出ス他ノ地ハ概ネ中部古生層ニ屬スルモノニシテ石灰岩、輝綠凝灰岩、硬砂岩、アデノール板岩、粘板岩、角岩、硅岩ノ露出ニシテ就中石灰岩ハ最モ集團的ニ露出ノ傾向ヲ有シセメント原料トシテ採掘シツ、アリ

上述ノ如ク水成岩系ノ基岩多ク且ツ條理節理ニ富ムヲ以テ風化度強ク水蝕ニ對スル抵抗薄弱ナル爲メ溪谷ハ深ク兩岸屹立山勢急ニシテ風趣ニ富メドモ山體ノ

安定度小ニシテ崩壊決済等極メテ頻々タリ

大正十二年九月一日ノ地震ニ因ル影響ハ以上ノ如キ地質ナルニヨリ山崩トシテ現出シタルモノハ一、二平方糸此外龜裂トシテ存スルモノハ殆ンド全般ニ亘リ無數ニシテ豪雨ニ際シテ地滑ヲ生ジ又ハ新規崩壊トナリ地滑ニヨリ植物ノ根部ヲ傷ケラレ生長ヲ阻害セラレタルモノ極メテ多シ此最モ著シク現ハレタルハ山梨縣東山梨郡神金村落合附近、全縣北都留郡小菅村附近及東京府西多摩郡檜原村附近等ナリ斯ル被害ハ一朝豪雨ニ際會スレバ土砂流出シ河水溷濁シ從來清冽ヲ以テ誇リタル多摩ノ流モ全ク泥溝ノ流ト選ブ所ナキニ至リ羽村上水道取入口附近土砂ノ集積度近時殊ニ甚シ故ニ速ニ之ガ流出ヲ防止シテ河水ノ溷濁ヲ止メ同時ニ下流川床ノ增高ヲ防止セザル可カラズ。

本區域ハ土質極メテ良好ナルヲ以テ樹木ノ生育良好ナリ故ニ崩壊地ノ復舊速カナレドモ地勢急峻ナルタメ表土ノ移動止マズシテ其ノ恢復ノ暇ナキ故山腹工ニ

ヨリテ其ノ表土ノ移動ヲ止ムルニ於テハ其ノ復舊期シテ待ツベキモノ多シ然レドモ經費ノ不足ハ溪間基礎工事ノ萬全ヲ期スルコトスラ難クシテ漸ク最モ急施ヲ要スル後掲ノ個所ニ堰堤ヲ築造シテ土砂流出ヲ防止シ溪床變動ニヨル両岸ノ危險ヲ豫防セントスルモノナリ尙幾何ノ工費ヲ以テ其ノ溪間基礎工事ヲ進メ山腹諸工事ヲ施工スルニ於テハ東京市上水道水源地トシテ適當ナル水源涵養地ヲ得ベシ

今参考トシテ主要ナル溪流ノ流域面積ヲ舉ケン

多摩川本流青梅町以奥

四五八平方糸

柳澤川

二八、八

一ノ瀬川

三三、七

小菅川

四六、七

峰谷川

一九、一

日 原 川

九三、〇

入 川 澤

七、四

秋川流域五日市町以奥

一四一、一

南 秋 川

五二、九

北 秋 川

四五、一

養 澤 川

一八、〇

淺川流域八王子市以奥

一〇三、五

南 淺 川

三一、八

北 淺 川

七一、七

本流域ニ於ケル年雨量高ハ二、〇〇〇粍乃至二、四〇〇粍ニ及ブ

二 計画ノ大要

多摩川

本流ハ青梅町上流水川村地先ニテ勾配百六十分内外以奥平均五十
 分内外ノ勾配ヲ有スル河川ニシテ河勢急ナルヲ以テ砂礫ノ流下大ナリ加フルニ
 支流ヨリ流入スル土砂ハ巨量ニ達スルニ依リ大澤川ニ大澤川堰堤外一ヲ築造シ
 テ府社御岳附近ニ出來セル龜裂崩壊ヨリ來ル土砂ノ流出ヲ防止セントス御岳部
 落附近ハ地震ノタメ龜裂ヲ生ジ極メテ危險ニ陥レル所ナリ其他舟川澤、入川澤、
 海澤、柄久保澤等ニ堰堤工事ヲ施工シテ應急的ニ土砂ノ流出ヲ防止セントス此
 工費本工事費八萬貳百六拾圓峰谷川ハ本工事費壹萬九千百七拾圓ヲ以テ澤邊堰
 堤外二個ヲ築造スルモノニシテ殊ニ澤邊堰堤附近ハ溪床勾配六分ノニ達スル
 個所アリ

小菅川

ハ余澤堰堤外九個ノ堰堤ヲ築造シテ土砂ノ流出ヲ防止セントスル

モニニシテ何レモ第一期工事タルニ過ギズ小菅川ハ多摩川治水上最モ重大ナル意義ヲ有スル河川ニシテ且ツ最モ荒廢シ居レリ土砂ノ流量ハ極メテ巨量ナリ此工事費拾八萬圓泉水谷ハ本工事費六萬參千圓ヲ以テ三條堰堤外一個、一ノ瀬川ハ本工事費壹萬七千圓ヲ以テ一ノ瀬堰堤一個ヲ築造スルモノニシテ何レモ平均勾配十分ノ一内外ノ溪線ニシテ土砂石礫ノ移動盛ニシテ之ガタメ漸次兩岸毀損セラレツ、アリ

秋川 ハ五日市町地先ニ於テ勾配平均百六十分ノ一檜原村本宿ニ於テ南北秋川ニ分ル又小宮村十里木地先ニ於テ養澤川ヲ合ス養澤川ハ本工事費貳萬九千五百圓ヲ以テ上養澤ニ養澤川堰堤三個外ニ堰堤二個ヲ計畫シテ其ノ土砂流出ヲ防止セントス

北秋川ハ筈久保堰堤外一個ヲ築造シテ本川両岸及河床保護ニ任ゼシメントスルモノナレドモ之ノミニテハ支流ノ土砂ヲ止ムルニ由ナク止ムヲ得ズ更ニ第二期

計畫ヲ充實セシムルノ要アリ此工費本工事費壹萬六千八百圓

南秋川ハ滑石堰堤外四個ヲ築造スルモノニシテ何レモ支流ニ着手スルヲ得ザルハ甚ダ遺憾トスル所ナリ此工費本工事費六萬七百圓益堀澤ハ上流崩壊シアルヲ以テ此土砂流出防止ノ目的ヲ以テ益堀堰堤一個ヲ築造ス此工費本工事費壹萬參千圓

淺川 流域ハ本工事費五萬圓ヲ以テ力石堰堤外八個ヲ築造スルモノニシテ主トシ上流ヨリノ土砂ノ流出ヲ防止スル目的ニ外ナラズ淺川ハ南北ノ兩支ニ分レ何レモ平時地表水ナキ流ニシテ降雨時ニ亂流シ兩岸ヲ欠キ被害極メテ重大ナル河川ナルガ故ニ上流ニ堰堤ヲ築設シテ下流ノ悪化ヲ防止セントスルモノナリ

多摩川流域震災復舊砂防工事費内訳表

本流	支流	小支	位 置	名 称	長 高 <small>米 尺</small>	立 積 <small>枚</small>	金 額	内 額	摘要
多摩川									
	入川澤								
	東京府西多摩郡古里村棚澤								
	入川澤堰堤第一				六 六	一〇〇	一、八六〇〇〇〇		
			第二		六 六	三三	五、四二〇〇〦〦		

日原川	舟川澤
大澤川	船川澤
三田村 御嶽	全府 氷川郡
三田村 瀧本郡	全府 氷川郡
琴澤	舟川澤 堰堤第一
瀧本入堰堤	蓑澤 堰堤
堰堤	第五 第六 第五 第六 第四 第三 第二 第一 第五 第六
三五 三四六六	二〇 二九 三五 二七九 交三 圆二 圆一 圆一
二八〇	一〇,八〇〇〇〇〇
二八六六	七,三〇〇〇〇〇
五、三〇〇〇〇〇〇〇	七,三〇〇〇〇〇〇〇

小菅川玉川	盆堀澤	南郷	中ノ平堰堤	八七
郡山梨縣北小菅村玉川	石倉村盆堀澤	奈賀倉	内枚石堰堤	一七、三〇〇〇〇〇
余澤	田口	白澤	滑石堰堤	六、三〇〇〇〇〇
タケノカヤ	川入	笹烟	枚石堰堤	一三、〇〇〇〇〇〇
余澤	余澤	風穴	石堰堤	一四、〇〇〇〇〇〇
	田口	煙	堰堤	一九、〇〇〇〇〇〇
	山口	矢戸	堰堤	二〇、〇〇〇〇〇〇
	平山	良倉	堰堤	二一、〇〇〇〇〇〇
	澤	倉堰堤	堰堤	二二、〇〇〇〇〇〇
	堤	堰堤	堰堤	二三、〇〇〇〇〇〇
		堰堤	堰堤	二四、〇〇〇〇〇〇
		堰堤	堰堤	二五、〇〇〇〇〇〇
		堰堤	堰堤	二六、〇〇〇〇〇〇
		堰堤	堰堤	二七、〇〇〇〇〇〇
		堰堤	堰堤	二八、〇〇〇〇〇〇

淺川	北淺川	東京府南多摩郡恩方村力石	下堰堤	八四
森久保	入山原	入山原	上堰堤	八五
森久保	振宿	川井山	堰堤	八六
森久保	堰堤	井野堰堤	堰堤	八七
森久保	堰堤	堰堤	堰堤	八八
森久保	堰堤	堰堤	堰堤	八九
森久保	堰堤	堰堤	堰堤	九〇
森久保	堰堤	堰堤	堰堤	九一
森久保	堰堤	堰堤	堰堤	九二
森久保	堰堤	堰堤	堰堤	九三

酒匂川流域

一 山地、河川並ニ震災状態

酒匂川

ハ其源ヲ丹澤山塊及富士山ニ發シ上流部ニ於テ河内川及鮎澤川ノ二大支流ニ分歧ス震災復舊第一期砂防工事ヲ施行セントスル區域ハ河内川流域

及鮎澤川支流野澤川流域ニ限ラル

河内川 ハ其源ヲ中部及西部丹澤山塊ニ發シ其上流部ニ於テ玄倉、中、世附ノ三川ニ分歧ス流域面積百七十二平方秆アリ川口ヨリ世附川合流口ニ至ル八秆ノ區間ハ川床勾配比較的緩ニシテ百三十分ノ一ヲ示シ川幅ハ下流百二三十米ヨリ上流五十米内外ニ移行ス地質ハ御坂層及第三紀層ニシテ山地ノ崩壊甚シク兩岸小澤ヨリハ多量ノ土石ヲ本流ニ押出シテ田畠道路等ヲ埋没セリ本流ハ一般ニ河幅廣ク堰堤ノ好地点ニ乏シ世附川合流口以下八百米ノ地点ニ富士瓦斯紡績會社ノ發電水路取入口用堰堤アリ高十米ニシテ震災後土石扦止上多大ノ効果ヲ修メタリ

玄倉川

ハ其源ヲ蛭ヶ嶽（標高千六百七十三米）、丹澤山（標高千五百六十七米）、塔ヶ嶽（標高千四百九十一米）等ニ發シ流路延長十七秆ニシテ中川ト共ニ河内川ニ合流ス流域面積四十六平方秆アリ川床勾配ハ平均十八分ノ一ニシテ合流

口附近ニ於テハ約五十分ノ一トス流域内地質ハ上流石英閃綠岩下流ハ御坂層トス大正十二年九月一日ノ大震ニ因リ流域山地ニハ激甚ナル崩壊ヲ生ジ俗ニ震源地ト稱スル個所ノ如キハ全山完膚ナキ迄ニ崩壊セリ而シテ同年九月十五日ノ出水ニ際シテハ崩落土石ト倒木トハ一時ニ河川ニ押出シ合流口ヨリ上流約二秆間ノ沿岸田畠ハ大半埋沒ノ厄ニ會シ川幅ハ擴ガリテ二百米ヲ超ヘ川床ニハ徑二米餘ノ大轉石ヲ多數押送シ來レリ尙出水當時ニ於ケル倒木ノ流出量ハ驚クベキ額ニ達シ河原ハ一面流木ヲ以テ被ハレタリトイフ

中川

ハ其ノ源ヲ大群山標高千五百八十八米）加入道（標高千四百十八米）其他ニ發シ流路延長十三秆ニシテ玄倉川ト共ニ河内川ニ合流ス流域面積四十二平方秆アリ平均川床勾配二十三分ノ一ニシテ合流口附近ニ於テハ約六十分ノ一トス本川流域ノ地質震災狀態ハ大略玄倉川ニ同ジ

世附川

ハ其ノ源ヲ西丹澤山塊ニ發シ流路延長十四秆ニシテ河内川ニ合流

ス流域面積六十七平方糠アリ川床勾配ハ平均二十分ノ一ニシテ流域内地質ハ上流石英閃綠岩下流ハ御坂層及火山灰層トス本川流域ノ崩壊ハ前ニ支流以上ニ激甚ニシテ兩岸小澤ヨリハ殆ド例外ナク扇狀ニ大量ノ土石ヲ河中ニ押出シ震災直後ノ出水當時ニハ一時的ニ川流ヲ堰キ止メタル形跡顯著ナリ大又澤合流口下流左岸ニハ嶺ヨリ山脚ニ亘ル大崩壊アリ高三百米幅八十米ニ達ス大又澤合流口以上ニ於テハ山腹ハ赤土ヲ以テ厚ク被ハレ且葺地多キヲ以テ崩壊ハ益激甚ナリ震災ノ狀態右ノ如ク土石ノ流失夥シキヲ以テ中流部及下流部ニ於テハ川床ノ增高六乃至七米ニ達シ將來出水毎ニ下流ニ流出スベキ土石量極テ巨額ニ達スベシ野澤川ハ其ノ源ヲ湯船山(標高千四十二米)、山伏山(標高九百三十米)其他ニ發シ流路延長七糠小山町ニ於テ鮎澤川ニ合流スル小河川ナリ流域面積十四平方糠アリ流域内地質ハ上流御坂層ニテ下流ハ全部赤土層トス震災ニ因ル崩壊ハ相當激甚ナルモ其被害ハ河内川流域ニ比シ遙ニ劣レリ

一 計 畵 ノ 大 要

酒匂川流域砂防本工事費八拾五萬圓ニシテ内河内川七拾參萬圓鮎澤川拾貳萬圓トス

河内川 本流ニ於テハ適當ナル堰堤個所少ク只僅ニ大字神繩ニ於テ富士瓦斯紡績株式會社堰堤下流約千百米ノ位置ニ一地点アリ之ヲ堰堤個所トシテ選定セリ

玄倉川 本流ニ於テ最下流ニ築設セントスルモノヲ立間堰堤トス是ヨリ下流ニハ適當ナル堰堤個所ヲ欠ク同堰堤ハ上流堰堤ト相俟テ本川砂防上威効ヲ奏スペク尙川口ヨリ上流千八百米ノ個所ニ合流スル大支流小菅澤ニ向澤堰堤ヲ築設ス

中川 本流ニハ川口ヨリ四百米及千八百米ニ好地点アルモ此地ニ堰堤ヲ築設

スルトキハ上流ヲ犠牲トスル欠点アルヲ以テ暫ク之ヲ置キ川口ヨリ上流約四千
米ノ地点ニ一大堰堤ヲ築設スルコト、ナセリ尙支流菩提澤、惡澤及田之澤ニハ
各一堰堤ヲ築設スルコト、ナセリ

世附川 本流ハ川幅廣クシテ適當ナル堰堤個所少ナキヲ以テ川口ヨリ上流七
千五百米ノ地点ニ一堰堤ヲ築設スルニ止メ支流大又澤（川口ヨリ四千百米ノ地
点ニ合流流域面積二十三平方杆）ニ三個所同寺之澤、勘淵澤及源五郎澤ニ各一
個所ノ堰堤ヲ築設スルコト、ナセリ

以上十五堰堤ヲ以テ河内川流域第一期砂防工事ヲ施行セントスルモノナルモ此
大面积ノ流域ト崩壊トニ對シテハ工費少額ニ過ギ充分砂防ノ目的ヲ達スルヲ得
ズ將來追加工事ヲ必要トス

野澤川 流域ニ對シテハ本流及支流湯船澤、小野畠澤及棚澤ニ合計七個所
ノ堰堤ヲ築設シ砂防ノ目的ヲ達セントスルモノニシテ右程度ノ工事ヲ施行スル

ニ於テハ本流域河川ノ荒廢ハ大体ニ於テ鎮定スルニ至ルベシ

酒匂川流域震災復舊砂防工事費内訳表

本流	支流	小支	小々支	位置	名稱	長 度 メ タ ー	立 積 量 メ タ ー	金 額 日 圓	摘要	
									小計	
	酒匂川	河内川			神繩堰堤	合	八、五西			
					立間堰堤	二三、四〇				
					立間上流堰堤	一五七、四三				
					立間堰堤	二〇二、七六				
					向澤堰堤	五七、四七				
					中川堰堤	九七、六〇				
					中川堰堤	五七、六〇				
					菩澤堰堤	三五、〇〇				
					菩澤堰堤	二七、六〇				
					惡澤堰堤	二一、一四				
					惡澤堰堤	九五				
小計										
田之澤										
菩澤堰堤										
惡澤堰堤										
酒匂川										
河内川										
玄倉川										
小菅澤										
菩澤										
惡澤										
田之澤										

世附川	寺之澤 大又澤	勘淵澤 源五郎澤	鮎澤川 野澤川	湯船澤 峰坂堰堤	湯船澤下流堰堤 湯船澤堰堤	勘淵澤上流堰堤 源五郎澤堰堤	大又澤堰堤 大又澤上流堰堤	寺之澤堰堤 大又澤下流堰堤	世附堰堤 大又澤堰堤
三、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一五、六〇〇、〇〇〇	二三、〇〇〇、〇〇〇	一七、〇〇〇、〇〇〇	二四、〇〇〇、〇〇〇	二三、〇〇〇、〇〇〇	二一、〇〇〇、〇〇〇	二四、〇〇〇、〇〇〇	二三、〇〇〇、〇〇〇	三、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇
未着手	施行中	未着手	未着手	未着手	未着手	未着手	未着手	未着手	未着手
八〇、〇〇〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇、〇〇〇	一三〇、〇〇〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇、〇〇〇	一七〇、〇〇〇、〇〇〇
四一、〇〇〇、〇〇〇	四二、〇〇〇、〇〇〇	四三、〇〇〇、〇〇〇	四四、〇〇〇、〇〇〇	四五、〇〇〇、〇〇〇	四五、〇〇〇、〇〇〇	四五、〇〇〇、〇〇〇	四五、〇〇〇、〇〇〇	四五、〇〇〇、〇〇〇	四五、〇〇〇、〇〇〇
未着手	未着手	未着手	未着手	未着手	未着手	未着手	未着手	未着手	未着手

合計	小計	小計	棚澤	小野畠澤
			棚澤堰堤	小野畠澤堰堤
二七〇	二〇〇	二〇〇	一七〇	一〇〇
六	七	八	五	九
三六	六五	一〇九	一〇九	一〇九
金〇、〇〇〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇、〇〇〇	二三、〇〇〇、〇〇〇	二三、〇〇〇、〇〇〇	二三、〇〇〇、〇〇〇
未着手	未着手	未着手	未着手	未着手

花水川流域

一 山地、河川並震災状態

花水川 ハ其源ヲ中部丹澤山塊及東部丹澤山塊ニ發シ其上流部ニ於テハ玉川、鈴川、金目川、葛葉川及水無川ノ五川ニ分岐シ下流ニ至リ諸川各合流シ花

水川トナリ大磯町ニ於テ海ニ注グ流域面積二百二十平方秆アリ

玉川 ハ源ヲ大山ニ發シ東流ス流域山地ハ地勢急峻ナルヲ以テ震災ニ因リ山腹ニハ無數ノ崩壊ヲ生ジ震災直後ノ豪雨ニ際シテハ土石流ヲ形成シ下流部落ニ甚大ノ損害ヲ與ヘ尙今後危險ノ狀態ニアル家屋十數戸アリ

鈴川 ハ其源ヲ大山(標高千二百四十六米)ニ發シ南東流ス震災ニ因リ勾配急ナル水源山地ニハ大面積ノ崩壊ヲ生ジ九月十五日ノ暴風雨ニ際シテハ山腹及川床ニ堆積セル多量ノ崩落土石及倒木ハ山津浪トナリテ大山町ヲ襲ヒ多數ノ人家ヲ倒潰シ人畜ヲ害シタリ爾來一年町民ハ復興ニ努力シツ、アリシガ大正十三年九月十六日ヨリ十七日ニ亘リ暴風雨襲來シ山腹ハ益々崩壊ヲ増シ又々多量ノ土石ト倒木トヲ押出シ前年ノ慘禍ヲ繰返スニ至レリ

金目川 ハ其源ヲ大山ノ支峰タル春嶽ニ發シ南流ス震災後九月十五日ノ出水ニ際シテハ土石流蓑毛彎曲部ノ堤防ヲ破壊シテ部落ニ流入シ多大ノ損害ヲ惹

起セリ

葛葉川 ハ其源ヲ三ノ塔山(標高千二百六米)ニ發シ南流ス震災直後ノ出水ニ因リ土石流ハ入角彎曲部ヲ突破シテ耕地ヲ冒シ廣大ナル耕地ヲ不毛化シ人家ヲ流シ人畜ヲ死傷セシメタリ然ルニ大正十三年九月十七日並十月八日兩度ノ豪雨ニ因リ又々土砂ヲ押出シ其被害ハ前年ニ倍シ尙將來被害ハ益々増大セントスル狀勢ニアリ

水無川 ハ其源ヲ塔ヶ嶺ニ發シ南流シ後南東ニ流レ秦野町ノ南方ヲ過グ花水川第一ノ大支流ニシテ字大倉ニテ山間部ヲ離ル、ヤ流水ハ廣大ナル河積地ニ滲透シ其姿ヲ失ヒ荒廢最モ甚シ然リト雖沿岸低地ニ人家無キヲ以テ家屋流失人畜死傷等ノ慘禍ヲ見サリシハ幸ナリトス

花水川水源山地ハ地震ノ方向ニ直角ナルト其地勢急峻ナルトニ因リ震災ニ際シテハ大崩壊ヲナシ崩落土石及倒木ハ豪雨ニ際シ一時ニ溪谷ヲ下リシガ上流部ハ

川積極メテ小ナリシヲ以テ之ヲ流過スルヲ得ズ沿岸ノ地ヲ其狂暴ノ手ニ委スルニ至リシナリ

二 計 畫 ノ 大 要

事態右ノ如クナルヲ以テ本川ノ工事ハ一日モ猶豫スベキニアラズ速ニ上流ニ大堰堤ヲ築設シテ土石ノ流下ヲ抑止セサル可カラズ依テ先づ本工事費貳拾八萬圓ヲ以テ別紙ノ如キ計畫ヲ樹立シ其目的ヲ達セントスルモ右ヲ以テシテハ充分其目的ヲ達スルヲ得ズ更ニ相當ノ追加工事ヲ行ヒテ其ノ足ラサルヲ補ハサル可カラザルモノトス

梅ヶ尾堰堤ハ玉川小支日向川最下流ノ堰堤個所ニ築設セントスル本川唯一ノ堰堤ニシテ之ニヨリ大轉石ノ流下ヲ阻止スルヲ得ベク本川ニ對シ相當ノ効果ヲ齎スヲ得ベシ

大山町ニ災害ヲ蒙ラシムル河川ハ鈴川本流及支流不動澤及全茶湯澤ナルヲ以テ本流及茶湯澤ニ各二個所不動澤ニ六個所ノ堰堤ヲ築設シ土石ノ流下ヲ抑止スルコト、ナセリ以上完成後ハ大山町ノ災害ハ大ニ輕減セラル、ニ至ルベシ
金目川及葛葉川ニ對シテ各二堰堤ヲ水無川ニ對シテハ一堰堤ヲ計畫セリ何レモ土砂ノ流出ニ對シ多大ノ効果アルベシ

花水川流域震災復舊砂防工事費内訳表

本流	支流	小支	小々支	位 置	名 称	長 度	高 度	立 積	金 額	摘要
花水川	玉 川	日 向 川		計	梅ヶ尾堰堤	五〇	五 六			
鈴 川	鈴 川				元 段 堰堤	三一	八	三,〇〇〇,〇〇〇	未着手	
鈴 川 不動澤					元 二〇 一、三八	五四	二、〇〇〇,〇〇〇	二、〇〇〇,〇〇〇	未着手	
					五五、〇〇〇,〇〇〇	三六、〇〇〇,〇〇〇	八、〇〇〇,〇〇〇	八、〇〇〇,〇〇〇	未着手	
								〃		

			小計		
袋町上流堰堤	一、六〇〇,〇〇〇	未着手	坂本下流堰堤	三,〇〇〇,〇〇〇	〃
坂本堰堤	七,〇〇〇,〇〇〇	竣功	坂本上流堰堤	八,〇〇〇,〇〇〇	〃
雨降山堰堤	六,一〇〇,〇〇〇	〃	雨降山堰堤	二,〇〇〇,〇〇〇	未着手
小計	一、六〇〇,〇〇〇	未着手	小計	三,〇〇〇,〇〇〇	未着手
督正山下流堰堤	三〇九	未着手	督正山堰堤	三〇一	未着手
督正山堰堤	三〇一	未着手	督正山堰堤	三〇一	未着手
葛葉川	二九九	未着手	金目川	二九九	未着手
茶湯澤	二九九	未着手	茶湯澤	二九九	未着手

水無川	
合計	計
山之神堰堤	八丁堰堤
五、二四二、一四三	六、〇九〇
五、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇
二八〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇,〇〇〇

早川流域

一 山地、河川並震災状態

早川 ハ其源ヲ箱根火山ノ火口原湖タル蘆ノ湖(湖面標高七二三メートル)ニ發シ仙石原ヲ灌漑シ銚子ノロニテ一瀉絶壁ヲ下リ宮城火口原ニ入り底倉ニテ蛇骨川ヲ合セ東部外輪山タル明星、淺間両山間ヲ過ギ湯本ニ於テ須雲川火口瀬ト合シ小田原町ノ南方ニテ相模灘ニ注ク急勾配ノ河川ナリ流域面積百二平方キロメートルアリ流域内ノ最高地点ハ中央火口丘神山ノ絶頂標高千四百三十八メートル而シテ蘆ノ湖口

ヨリ海ニ至ル流路延長ハ二十二秆ニシテ川床勾配ハ平均三十分ノ一トス本川水源タル蘆ノ湖ハ水面積七平方秆流域面積二十八平方秆ヲ領シ洪水ニ對シ好箇ノ貯水作用ヲ營ミ其調節ヲ司ル仙石原ニ於ケル早川ハ延長約七秆ニシテ水流緩ニシテ流量少ク治水上顧慮ノ要ナシ仙石原ヨリ宮城野ニ出デントスル區間約一秆半ハ兩岸岩盤(安山岩)ヲ露出シテ絶壁ヲ成シ右岸ニハ小塚山迫リテ跳子ノ口ノ稱アリ川床ハ浸蝕作用ヲ受ケテ漸次低下スルノ傾向アリ之ヲ過グレハ兩岸開ケテ宮城野トナリ水流ハ亂レテ兩岸ノ集塊質泥流地ヲ浸蝕シ川幅ハ次第ニ増大セントス下リテ木賀ニ至レバ川床勾配ハ急ニ十分ノ一内外トナリ出水ニ際シテハ龍大ナル轉石ヲ押送シテ破壊作用ヲ逞フス蛇骨川合流附近ヨリ塔ノ澤ニ至ル約六秆ノ區間ハ地質集塊質泥流及集塊岩ナルニ加ヘ川幅狹キヲ以テ浸蝕作用盛ニ行ハレ川床ノ低下甚ダシク深谷ヲ形成セリ塔ノ澤以下ニ至リテハ川床勾配四十分ノ一以下トナリ須雲川ヲ受ケテヨリハ漸ク平地部ニ入り約四秆ニシテ海ニ入分ノ一以下トナリ須雲川ヲ受ケテヨリハ漸ク平地部ニ入り約四秆ニシテ海ニ入

ル此區間ニ於テハ上流ヨリ押送セル土石ヲ川床ニ堆積スルヲ以テ河道ハ次第ニ高マリ亂流ハ堤防ヲ破壊シ石礫ヲ耕地ニ送リ之ヲ不毛ニ歸セシム

本川ニハ數多ノ支流アルモ其大ナルモノヲ須雲川及蛇骨川トス須雲川ハ源ヲ鞍掛山(標高千四メートル)ニ發シ流路延長十秆湯本ニ於テ早川ニ合流スル大支流ニシテ流域面積十八平方秆アリ蛇骨川ハ源ヲ神山駒ヶ嶽等ニ發シ底倉ニ於テ早川ニ合流スル大支流ニシテ流域面積七平方秆アルモ砂防工事ヲ要スル區間ハ下流ノ小部分ニ限ラレタリ

流域内山地ヲ構成スル基岩ハ安山岩ニシテ外見上熔岩ト集塊岩トアリ地質極メテ脆弱ニシテ容易ニ風化浸蝕ノ作用ヲ受ケ地勢ハ一般ニ急峻ニシテ林相ハ疎ニ未立木地多シ

震災前流域山地ハ崩壊比較的少ク土砂ノ流出著シカラザリシガ震災ニ因リ傾斜急ナル山腹ハ剝ル處大崩壊ヲナシ山容ヲ一變セシメ殊ニ須雲川流域ヲ以テ甚ダ

シトナス

大正十三年九月十七日ノ豪雨ニ際シテハ山腹ニ堆積セル崩落土石ハ一時ニ河中ニ押出シ家屋ヲ埋メ人畜ヲ害シ道路ヲ欠壊シ橋梁ヲ破壊流失シ護岸ヲ破リ多大ノ損害ヲ惹起セリ而シテ之ヲ現在ノ儘ニ放置スルトキハ崩壊ハ歲ト共ニ進ミ年々歲々其損害ヲ繰返スベク自然ノ大公園タル箱根ハ漸次荒廢ニ歸スルニ至ルベシ

二 計畫ノ大要

本計畫ハ本工事費六拾五萬圓ヲ以テ施行セントスルモノニシテ別表ニ示スガ如ク本流ニ六個所支流須雲川及蛇骨川ニ各一個所全常盤澤及大澤ニ各二個所合計十二個所ノ堰堤ヲ築造シ直接ニ多量ノ流下土石ヲ抑止スルノ外川床ヲ高メテ両岸崩壊ノ増大ヲ防ギ以テ山腹工事ヲ容易ナラシメ且ツ國道ノ安全ヲ期セントス

本流堰堤中大平台上流堰堤ハ本計畫中最大最高ノモノニシテ總工事費ノ三割七分ヲ占メ出山堰堤及觀音坂堰堤ト相俟テ早川治水ノ死命ヲ制ス大平台堰堤及全下流堰堤ハ上流堰堤ニ對シ副堰堤ノ作用ヲ營ム木賀堰堤ハ早川本流中川床勾配最モ急ナル木賀ニ築設シ以テ大轉石ノ移動ヲ防止セントス底倉堰堤ハ蛇骨川下流ノ絶ヘサル大浸蝕ヲ防止シ兩岸ノ崩壊ノ危険ヨリ救ハントシ常盤澤及大澤ノ堰堤ハ主トシテ國道ノ欠壊ヲ防衛スルヲ以テ目的トス右程度ノ工事ヲ施行セバ河狀ハ一大改良ヲ示シ塔ノ澤以下ノ下流ハ再び甚シキ水害ニ禍セラル、コトナカルベク上流ニ於テハ流水ハ緩トナリテ浸蝕作用ノミ昔日ノ狂暴ヲ見サルニ至ルベシ然レドモ尙工事ノ完全ヲ期セント欲セバ本流及各支流ニ尙多數ノ堰堤、床固及水制ヲ施設セサルヘカラズ

早川流域震災復舊砂防工事費内訳表

本 流	支 流	位 置	名 稱	長 度 <small>米</small>	立 積 <small>噸</small>	金 額	摘 要
早 川			塔 ノ 澤 堰 堤	三 三 一 、 五 〇	六 〇 〇 〇 〇	未 着 手	

須雲川 常盤澤

三

川箇四外川模相
圖覽一域區事工防砂旧復災震



